

令和 5 年 6 月 5 日現在

機関番号：11301

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K17480

研究課題名(和文) 社会経済的地位ががん患者のQOLと遺族の精神的健康に与える影響

研究課題名(英文) Relation between socio-economic status and the quality of life and mental health among patients with cancer and their family members

研究代表者

青山 真帆 (Aoyama, Maho)

東北大学・医学系研究科・講師

研究者番号：30781786

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の主要な目的は、患者・遺族の社会経済的地位(SES)が(1)がん患者の治療選択およびQOL、(2)遺族の精神的健康(うつや複雑性悲嘆)、に与える影響について明らかにすることだった。2018年度に実施された全国多施設遺族調査のデータ8126名分を取得し、解析した。主要な結果は、(1)患者の望ましい死の達成には、年収、同居の有無、治療中の暮らし向きなど等が関連した。(2)遺族のうつには、故人との続柄や現在の世帯年収等が関連していた。(3)経済的な理由によりがんの標準治療の中止・変更した割合は11%、だった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

社会経済的地位の違いによる健康格差は医療・公衆衛生学分野で広く明らかになっているものの、緩和ケア/終末期ケアにおけるアウトカムである終末期がん患者のQuality of Life (QOL)や遺族の精神的健康に与える影響は明らかでなく、具体的なアセスメント方法や支援方法が明らかではなかった。本研究で患者の望ましい死の達成度や遺族のうつ・複雑性悲嘆の関連要因を示したことで、医療者や行政が注視・改善すべき、がん患者および家族/遺族の社会経済的な要因、特に介入し、改善可能な要因について明らかになった。

研究成果の概要(英文)：The primary objective of this study was to determine the impact of socioeconomic status (SES) on (1) treatment choice and quality of life of cancer patients and (2) mental health (depression and complicated grief) of bereaved families. In total, 8,126 data from the nationwide multi-center bereavement survey conducted in 2018 (the Japan Hospice and Palliative Care Evaluation Study 4: J-HOPE4) were obtained and analyzed. The data was obtained and analyzed for 8,126 bereaved families. The main results were as follows: (1) Patient's desired death was related to the patient's annual income, whether or not the patient lived with a family member, living arrangements during treatment, and other factors. (2) Depression of the bereaved family members was related to their relationship with the deceased, current household income, and other factors. (3) The percentage of patients who discontinued or changed standard treatment for cancer due to financial reasons was 11%.

研究分野：終末期ケア

キーワード：健康格差 社会経済的地位 終末期ケア 遺族ケア ケアの質 グリーフ Good death

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

社会経済的地位と健康問題との関係性は、医療の様々な分野において関係性が明らかになっている(Fukuda; Soc Sci Med; 2010)。具体的には、社会経済的地位の低さは死亡率や循環器系疾患のリスクの上昇、メンタルヘルスの低下、BMI・血清コレステロール値・HbA1C の増加など健康リスクファクターとなりうる指標の悪化などである。また、がん領域では、近年、米国を中心に Financial Toxicity(経済的毒性)と呼ばれる新しいがん治療の副作用の概念が広まっている。これは、高額ながん治療費の影響で、生活をきりつめてがん患者の QOL が低下するだけでなく、治療の差し控えや処方箋の受け取りを自己判断で控えるなど、治療の決定やアドヒアランスに影響をあたえる問題として注目されている(Zafar; Oncologist; 2013)。このように、医療費の負担や患者・家族の世帯収入などの社会経済的地位が、治療選択や療養中の QOL へ影響を与える可能性が高いことが明らかとなっている。しかし、これらは、患者の治療期のある一時点に焦点があてられており、終末期医療に関して、社会経済的地位がそのアウトカムである終末期の QOL(望ましい死の達成度)や遺族の精神的健康状態などに与える影響については、先行研究がほとんどない。

分子標的薬など新薬の使用、先進医療などによって、がんに対する医療費は増加傾向になり、がん患者自身の経済負担も増大しているなか、社会的には経済格差の拡大も問題となっており、国民皆保険制度を取り入れているわが国においても、社会経済的地位が健康問題に与える影響は無視できない問題である。看護師や医師などの医療者が、患者の意思決定を支援し、終末期がん患者とその家族・遺族の QOL を向上するためのアセスメントの視点や具体的支援に対する方策を社会経済的視点から検討することは重要である。

2. 研究の目的

本研究は、がん患者および家族の社会経済的地位の違いによって、患者アウトカムとして、1) がんの治療選択やケアの質の満足度や望ましい死の達成度が異なるか、遺族アウトカムとして、2) 患者との死別後のうつや複雑性悲嘆などの精神的健康状態が異なるかを明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

2018 年度に実施された全国多施設遺族調査(日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団研究事業である「遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する研究 4(JHOPE4 研究)」)において、本研究対象のデータ 8126 名分を取得し、データクリーニングと解析を行った。J-HOPE4 研究の概要および本研究で使用した調査項目は以下である。

【調査方法】

自記式質問紙による郵送調査

【調査期間(質問紙の送付期間)】

2018 年 7 月～9 月

【本研究で使用した主な調査項目】

- ・ 終末期がん患者の QOL(望ましい死の達成度): Good Death Inventory(GDI)
- ・ 遺族のうつ: Patient Health Questionnaire -9 (PHQ-9)
- ・ 遺族の悲嘆: Brief Grief Questionnaire (BGQ)
- ・ 社会経済的地位: 学歴、療養中の患者の年間世帯収入、遺族の現在の年間世帯収入、居住地

域(都市部/過疎地域)、同居者の有無、患者死亡前 1 年間に支払った医療費

- ・ がん治療の中止・変更: 経済的な理由によって、医師の進める治療または本来受けたいと思っていた治療を変更・中止することがあったかどうか
- ・ その他: 人口統計学的要因(性別、年齢、がん原発部位、死別後期間など)

【解析】

記述統計量の算出および、単変量解析・多変量解析

4 . 研究成果

本研究の主要な結果として 3 点あげる。

(1) 患者・遺族の社会経済的背景とがんの治療選択について

患者が経済的な理由で医師からすすめられたがん治療を変更・中止したかどうかについて、85%(n=6260)が全くなかったと回答している一方、3%(n=227)がよくまたは時々あったと回答していた。抗がん治療のための生活の切り詰めは、「全くなかった」と回答したのが 70%(n=5063)、「あまりなかった」が 16%(n=1187)だった。治療中の患者の暮らし向きは「家計にゆとりがなく、多少心配があった」「家計が苦しく非常に心配だった」が合わせて 14%(n=1066)だった。

遺族に関する項目では、患者の介護による仕事への影響について「休職も含め、仕事を継続した」と回答したのが 49%(n=4017)で、介護による離職をしたと回答したのは 7%(n=549)だった。

(2) 患者の社会的経済的背景と望ましい死の達成度との関連

患者の社会経済的背景と望ましい死の達成度との関連を明らかにするために、単変量解析(t検定または一元配置分散分析、順序変数では傾向性の検定)を行った。患者の社会経済的背景(性別、年齢、婚姻状況、同居の有無、医療費、世帯年収、治療中の暮らし向き、治療のための生活の切り詰め)に関するすべての項目で、 $p < 0.05$ と有意な関連がみとめられたが、臨床的な意義のある差を示す効果量(Effect Size:ES)はいずれもほとんどみとめられなかった。多変量解析(重回帰分析)の結果も同様だった。

(3) 遺族の社会経済的背景と死別後のうつとの関連

遺族の社会経済的背景と望ましい死の達成度との関連を明らかにするために、単変量解析(カイ二乗検定)を行った。うつの評価は Patient Health Questionnaire-9 (PHQ-9)を用いた。PHQ-9 の合計点 10 点以上を「うつの可能性あり」として 2 値化した。カイ二乗検定の結果、すべての項目でうつと有意な関連がみとめられた。中程度以上の ES がみとめられた項目は、続柄(ES=0.40)と遺族の現在の世帯年収(ES=0.38)の 2 つだった。多変量解析(ロジスティック回帰分析)の結果も同様の変数で有意な差がみとめられた。

望ましい死の達成に関連する患者の社会経済的背景として、年収は有意に関連しなかったが、同居者の有無や治療中の暮らし向きなどの本研究で調査した社会経済的地位に関連するすべての項目で有意差がみとめられた。死別後のうつと遺族の社会経済的背景では、続柄と現在の世帯年収などに有意差がみとめられた。しかし、有意差がみとめられた項目でもほとんどの項目で効果量はほぼみとめられず、本研究対象では社会経済的地位のちがいは望ましい死の達成度やうつには大きく影響しなかったと考えられる。一方、がん治療中の暮らし向きについて、何らかの心配事を抱えていた患者の割合は 15%、介護による離職を経験した家族の割合も 7%と、そちらも少なからずいることが明らかになったことから、困難を抱えるがん患者・遺族への継続的なサポートの必要性が示唆された。

最後に、本研究対象者は、60歳以上が6割以上を占め、就業している年代の対象者が半数未満であった。若い世代では、がんの罹患や介護・死別が就労や世帯収入に与える影響がより大きくなると考えられ、社会全体を考えた場合、今回の結果は社会経済的背景の望ましい死の達成度や遺族のうつに対する影響を過少評価している可能性がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Sasaki T, Aoyama M, Igarashi N, Morita T, Shima Y, Miyashita M.	4. 巻 -
2. 論文標題 Influence of financial burden on withdrawal or change of cancer treatment in Japan: results of a bereavement survey	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Supportive Care in Cancer	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s00520-022-06933-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Aoyama Maho, Sakaguchi Yukihiro, Igarashi Naoko, Morita Tatsuya, Shima Yasuo, Miyashita Mitsunori	4. 巻 -
2. 論文標題 Effects of financial status on major depressive disorder and complicated grief among bereaved family members of patients with cancer	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Psycho-Oncology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/pon.5642	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Aoyama Maho, Miyashita Mitsunori, Masukawa Kento, Morita Tatsuya, Kizawa Yoshiyuki, Tsuneto Satoru, Shima Yasuo, Akechi Tatsuo	4. 巻 -
2. 論文標題 Predicting models of depression or complicated grief among bereaved family members of patients with cancer	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Psycho-Oncology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/pon.5630	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Aoyama Maho, Sakaguchi Yukihiro, Fujisawa Daisuke, Morita Tatsuya, Ogawa Asao, Kizawa Yoshiyuki, Tsuneto Satoru, Shima Yasuo, Miyashita Mitsunori	4. 巻 275
2. 論文標題 Insomnia and changes in alcohol consumption: Relation between possible complicated grief and depression among bereaved family caregivers	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Affective Disorders	6. 最初と最後の頁 1~6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jad.2020.06.023	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Maho Aoyama
2. 発表標題 Effects of financial status on depression and grief among bereaved family members of cancer patients.
3. 学会等名 16th World Congress of the European Association for Palliative Care (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------